



# 医歯薬学研究部だより

徳島大学大学院 医歯薬学研究部

Tokushima University  
Graduate School of Biomedical Sciences

Vol. 19  
2024年4月1日



- 1 巻頭言  
大学院医歯薬学研究部長 赤池 雅史

---

- 2 副研究部長就任挨拶  
医科栄養学研究科長 高橋 章

---

- 2 新分野紹介  
地域・家庭医療学分野 特任教授 八木 秀介  
口腔保健医療管理学分野 教授 藤原 奈津美

---

- 3 旬の研究紹介：がん治療の有害事象を軽減する p53 制御剤の開発  
医用理工学分野 教授 森田 明典

---

- 4 医療教育開発センターニュース  
医療教育開発センター長 赤池 雅史

---

- 5 宇宙栄養研究センターニュース  
宇宙栄養研究センター 機能性宇宙食ユニット/  
生体栄養学分野・講師 内田 貴之

---

- 6 看護リカレント教育センターニュース  
看護リカレント教育センター長 山下 留理子

---

- 7 DDS 研究センターニュース  
DDS 研究センター長 小暮 健太郎

---

- 総合研究支援センターニュース  
先端医療研究部門 中央機器室 薬学系分室  
副技術部門長 北池 秀次

---

- 8 AWA サポートセンターニュース  
AWA サポートセンター長 坂東 良美

---

- 「蔵本地区国際交流のタベ」開催報告  
大学院医歯薬学研究部長特別補佐  
医学部国際コーディネーター 村澤 普恵

---

- 10 研究部市民公開講座開催報告  
代謝栄養学分野 教授 阪上 浩

---

- 研究部公開シンポジウム開催報告  
生物有機化学分野 教授 南川 典昭  
臨床薬学実務教育学分野 教授 阿部 真治

---

- 11 新任教授ご挨拶

---

- 研究部ニュース

---

- 退職教授一覧

---

- 12 学会情報

---

- 学会賞等受賞者紹介

---

- 編集後記

## 巻頭言

## 医歯薬学研究部20周年を迎えて

医歯薬学研究部長 赤池 雅史

この度、令和6年4月1日から2年間の任期で、2期目となる医歯薬学研究部長を拝命しました。20周年を迎える節目の年に研究部長を務めることとなり身の引き締まる思いです。

世界規模で猛威を振るい、生活・経済、教育・研究活動等に大きな影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症は、昨年5月に「5類感染症」に変更され、授業・実習や学会の対面実施や国際交流が本格化に再開されていますが、その流行は終息する気配がなく、インフルエンザとともに感染対策が引き続き求められています。このように先行きが不透明ななか、年明け1月1日には能登半島地震が発生しました。震災によって亡くなられた方々に深い哀悼の意を表しますと共に、御遺族と被災された方々に心からお見舞い申し上げます。医療系教育・研究機関としては、その復興支援はもとより、感染症や災害を含めた医療危機管理の専門人材育成やその領域の研究の発展に尽力することが必要であると強く感じています。

さて、医歯薬学研究部は、医学、歯学、薬学、栄養学、保健学が個々の特色を活かしながら連携することにより、先端的な基礎生命科学研究からトランスレーショナルリサーチを進展させることや、各専門領域の融合化をはかるという基本理念のもと、平成16年4月の国立大学法人化と同時に設置されました（平成27年4月にヘルスバイオサイエンス研究部から名称変更）。この結果、教員は学部にも所属し大学院を兼務する体制から、教員組織である研究部に所属して研究活動を行いながら、学生が所属する組織である医療系学部・大学院の教育を担当する「教教分離体制」へと大きく転換することになりました。同時に、このような研究・教育活動を支援する組織として医療教育開発センター、総合研究支援センターを設置し、さらに、研究・教育の強みを活かした特色ある組織として、宇宙栄養研究センター、看護リカレント教育センター、DDS 研究センターを設置しています。この体制のもとで、それぞれの専門性を活かしながら、組織・領域を超えた横断的研究を推進するとともに、複数の学部・大学院教育に関わることで専門教育の質の向上と医療系共通・連携教育の推進をはかってきました。平成29年4月には、医学域、歯学域、薬学域、保健学域の4学域と各学域を構成する部門および系へと再編し、教員人事は各学域の教員会議での審議を経て医歯薬学研究部教授会に諮る体制とし、研究部教授会に人事案件と財務案件を審議の所掌に加えることで、教員組織としての実質化が図られています。

令和5年度には、歯学部校舎西側に「医歯薬学共創プラザ」が完成し、医療教育開発センター、AWA サポートセンターの移転と共に、新スキルス・ラボ、国際交流スペースの利用が開始されています。今年度には、看護リカレント教育センター、情報センター蔵本分室、AI 研究開発スペース、医療危機管理研究分野スペース、PC センター、新クリニカル・アナトミーラボ（凍結遺体、チール法対応）の移転・稼働が予定されています。医歯薬学共創プラザは、医歯薬学研究部が開設当初から掲げる理念・目的をまさに体現する施設です。医歯薬学医研究部20周年を迎えるにあたり、私共はその開設時の理念・目的をあらためて認識し、各学域の特色を最大限活かしながら、相互に連携・協力することで、蔵本地区を世界に発信できる医療・生命科学の教育・研究拠点へと発展させていかなければなりません。

## 副研究部長就任挨拶



### ■ 医科栄養学研究科長

高橋 章

令和6年4月から医歯薬学研究部副研究部長ならびに医科栄養学研究科長を務めさせていただくこととなりました。我が国で最初の栄養学大学院であるという自負の基に、さらに教育・研究レベルを高めていけるように努力してまいります。幸いにも、医科栄養学研究科は前期(修士)課程および後期(博士)課程とも多くの学生が入学してくれており、その卒業生は国内外で大いに活躍されており、これらの方々はまさに日本の栄養学の将来を担う人材です。

臨床栄養学研修や国内外の研究センターとの連携による人的交流などをさらに進め、疾患の原因を解明し、それを栄養学的に予防・治療しようとする研究者を育てたいと考えています。機能性食品の開発、新規臨床栄養管理法の開発、宇宙栄養学、疾患の分子的病態の解明、腸内細菌の制御による健康維持法の開発等の視点から、栄養問題の解決に取り組んでいきます。また、次世代の栄養学教育研究分野を担う優秀な人材の育成、研究成果を通じた社会貢献、高度な専門知識を有し医療機関や地域社会・産業分野で活躍できる人材の育成を行います。

徳島大学大学院は栄養系だけでなく、医学系、歯学系、薬学系、保健学系と健康科学に関するすべての研究コースが備えられています。そこで各研究科とより連携を深め、世界に通用する人材を育てていきます。

なにとぞご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

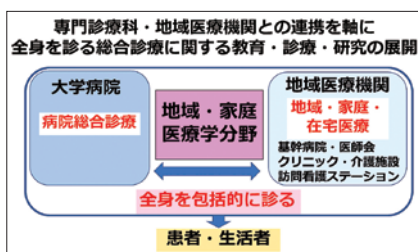
## 新分野 紹介

### 地域・家庭医療学分野

#### ■ 地域・家庭医療学分野 特任教授 八木 秀介

地域・家庭医療学分野は、地域医療学・家庭医療学・総合診療医学に関する教育・診療・研究活動を実践する教室として、令和5年12月1日付けで医歯薬学研究部医学域内科系に新規開設された分野です。

超高齢化社会を迎え、地域社会の健康ニーズに焦点を当て、地域の文化や環境を考慮し、地域住民全体の健康促進を実践する地域・家庭医療学の重要性が益々高まっております。医学教育モデル・コア・カリキュラムには医師の資質・能力の1つとして「総合的に患者・生活者を見る姿勢(Generalism)」が示されており、学修目標として「全人的・地域・人生・社会の視点とアプローチ」の教育が求められております。これらの姿勢・視点は、専門医のみならず、すべての医師に求められる基本的な学修内容であり、その修得のためには地域医療に触れながら十分な時間をかけた全人的な教育が求められます。医学教育分野別評価では主要な7つの診療科における十分な診療参加型臨床実習期間の確保が求められており、総合診療/家庭医療もそのひとつです。このように、地域・家庭医療教育の重要性が高まる中で当分野は開設されました。当分野特任教授は海部病院に対する県の寄附講座「総合診療医学分野」特任教授と大学病院「総合診療部長」を兼ねており、今後はこれら3つの部署の強固な連携によりシームレスな卒前・卒後教育を行い、徳島の総合診療を担う人材育成に尽力したいと存じます。診療面では、専門領域に分類できない疾患に対して臓器横断的かつ全人的な総合診療を各診療科と協力しながら行いたいと存じます。研究面では、地域・家庭医療における未解決の疑問・ニーズを導き出し、患者中心の視点からそれらに応えられる臨床研究を行っていきたく存じます。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



### 口腔保健医療管理学分野

#### ■ 口腔保健医療管理学分野 教授 藤原 奈津美

令和5年4月1日より、口腔保健教育学分野に代わり、口腔保健医療管理学分野が創設されました。令和6年4月1日より松村佑季助教が当分野の新たなスタッフとして参画してくれております。さて、徳島大学は国立大学大学院を有する、全国で4校しかない歯科衛生士養成機関です。歯科衛生士臨床実践者の育成のみならず、歯科衛生士研究者、社会に貢献できる歯科衛生士のリーダーを輩出する必要があると考えております。

研究活動におきましてはこれまでに、新規化合物の歯周病原菌への効果検討のような細菌を扱う研究、エナメル質の発生におけるフッ化物の影響の検討のような細胞を扱う研究を行ってきました。近年では口腔がんと口腔細菌の関連性や、環境汚染物質で発がんに関わる有機フッ素化合物(PFAS)の口腔への影響に興味を持って研究を進めています。歯科衛生士としての臨床実践活動も充実させていきたいと考えています。継続した臨床実践から、歯科衛生士の強み・専門性を探索し、それが研究活動につながるような分野づくりに尽力して参りたいと思います。

日本の歯科衛生士は慢性的な人手不足と高い離職率という大きな問題を抱えております。歯科衛生士の仕事の魅力ややりがいを啓蒙・発掘することが必要です。当分野では基礎研究を基盤とした、口腔ケアの重要性に訴えかけようとするエビデンスを創出し、歯科衛生士の新たな可能性を広げていきたいと思っております。また多分野との協働のもとで歯科衛生士の離職予防・復職支援の中核となる施設をつくり社会貢献活動を展開したいと考えております。創設されて間もなく、スタッフ2人3脚での分野運営ですので、どうぞご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



旬の  
研究紹介

## がん治療の有害事象を軽減する p53 制御剤の開発

■ 医用理工学分野 教授 森田 明典

現在、継続的ながん医療を受けている日本の患者数は、約150万人に上り、その内の約3割が放射線治療、約8割が化学療法の適応となります。つらく苦しい治療を乗り越えて克服するというがん治療のイメージは、正常組織障害というリスクと引き換えにがん根治という利益を得る以上やむを得ないという考えに基づきますが、これらの治療における有害事象は軽微なものも含めると発生率は高く、根治に必要な投与量と許容できる正常組織障害発生率の兼ね合いが処方できる投与量の限界も決めており、結果として多くの患者にQOLに関わる多大な負担を強いています。

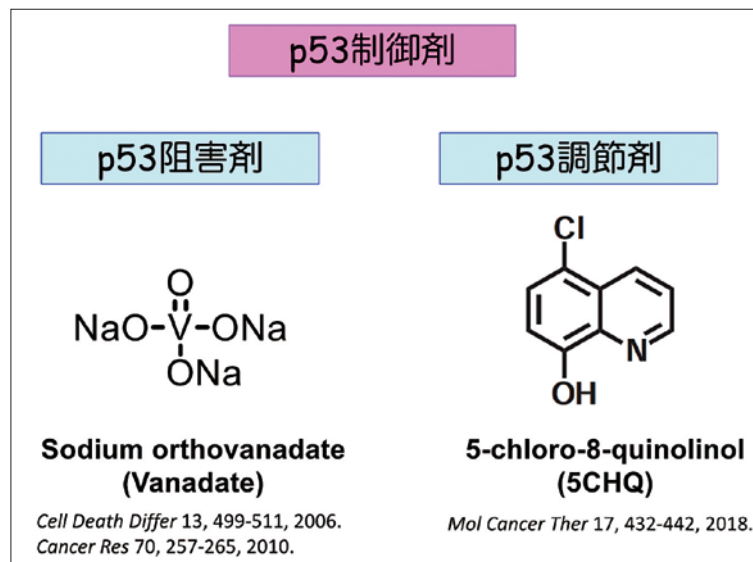
腸管は代表的な放射線感受性組織であり、腹部及び骨盤領域の腫瘍に対する処方線量を制限するリスク臓器です。放射線治療においては、分割照射により正常組織障害の程度は軽減されるものの、腸管が照射野に近接している場合には、治療開始後数週間而出现する放射線性腸炎のほか、数か月から数年後に腸管の狭窄、閉塞、潰瘍などで、まれに外科的手術が必要になる場合もあります。また、化学療法剤の多くはDNA損傷応答を誘導することによりがん細胞を殺傷しますが、造血器官である骨髄はDNA損傷に対して極めて鋭敏で、正常組織においては骨髄抑制を引き起こし血液成分の減少を招くため、その対策が非常に重要です。

このように腸管や骨髄はDNA損傷を誘導するがん治療モダリティにおいて特段の配慮が必要な高感受性組織であり、がん治療においてさらなる対策が必要なりリスク臓器です。当研究室では、DNA損傷の初期応答因子であり、損傷を受けた細胞のその後の運命を決める制御分子でもあるp53に注目し、その活性を制御する薬剤の開発に取り組んでいます。放射線被ばく後、骨髄組織においてp53はアポトーシスを誘導し、細胞死を促進するようにはたらく一方、非造血器系の細胞では、放射線によって

核内のDNAが傷ついた細胞の分裂増殖を抑え、生じたDNA損傷を修復するための時間的余裕をもたらす増殖遅延遺伝子を活性化する機能もあるため、被ばく後の腸組織では、p53は細胞死に抵抗するはたらきをします(Science 327, 593-596, 2010)。このように組織によって相反する細胞死制御活性を示すため、防護対象となるリスク臓器のp53の役割に応じ、p53の制御方法を変える必要があります。

私たちは、最近の研究により、「p53制御剤」には、「p53阻害剤」と「p53調節剤」の2つのタイプがあり、全身被ばくによる骨髄抑制には、「p53阻害剤」、局所被ばくによる腸障害には、「p53調節剤」が有効であることを明らかにしました。p53制御剤の有効性として述べておきたいこととなりますが、多くのがんでは、p53が変異していたり、ウイルス由来の因子によってp53が不活性化されていたりするため、p53制御剤による防護効果はp53が正常にはたらいっている細胞だけに作用することも特徴です。

なお、私たちが現在注目しているp53調節剤は、p53が有する「細胞を生かす」遺伝子の活性化を正常細胞で促進するだけでなく、p53機能を喪失したがん細胞に対しては「DNA損傷に対する感受性を増す」はたらきも持つ画期的ながん治療増感剤です。放射線治療を例にとると、正常組織の選択的防護による1回照射線量の増大や分割照射回数の減少、および総線量の低減が期待されます。現在の標準療法では、平日5回の照射を7週続ける治療計画が普及していますが、本研究を進展させ、通院回数が減らせ、有害事象も減らせ、なおかつ放射線が有する抗腫瘍効果を増大させる画期的な化学放射線増感剤の開発を目指します。苦しいがん治療のイメージから脱却する時代がもうすぐやって来ることを信じて一緒に研究できる方も募集しています。



# Center News ①

## 医療教育開発センターニュース

### 医療教育開発センター長 赤池 雅史

#### 取組紹介

##### ●組織横断型教育クラスターによる大学院教育支援

2009年度より教育クラスターによる大学院教育が継続されており、「心・血管」「肥満・糖尿病」「感染・免疫」「骨・筋とCa」「脳科学」「発生・再生・遺伝」の6つのクラスター活動を支援しています。

●クラスターコアセミナー：6クラスター合わせて52回開催されました。  
(詳細：医療教育開発センターHP <https://www.hbs-edu.jp/index.html>)

●ミニリトリート：今年度も対面、オンライン開催等、クラスター毎に企画・実施されています。COVID-19感染症対策の変化に伴い、対面開催が増えました。

Webを利用することにより、海外在住の講師による特別講演も実現しています。

クラスター	開催日・方法	ミニリトリート参加人数(人)				
		院生	学部生	教員	講師	計
発生・再生・遺伝	2024.1.18 Web	26	0	9	0	35
肥満・糖尿病	2024.1.19 対面	15	13	34	2	64
感染・免疫	2024.2.1-2 対面	10	1	22	1	34
骨・筋とCa	2024.2.2 対面	19	6	24	1	50
脳科学	2024.2.23 対面	12	5	17	1	35
心・血管	2024.2.24 対面	12	6	15	1	34
合計		94	31	121	6	252



##### ●中心静脈カテーテル(CVC)挿入個別講習会

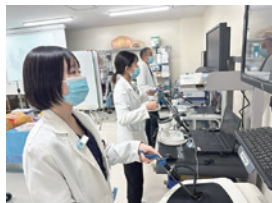
2023年度は18回開催されました。徳島大学病院(16名)、徳島県立中央病院(41名)、徳島市民病院(28名)、吉野川医療センター(9名)の研修医のべ94名が受講しています。

安全、安心なCVC挿入手技の修得に役立っています。



##### ●低侵襲手術手技トレーニング

医学科クリニカル・クラークシップの学生を対象に、縫合実習、腸管吻合実習、腹腔鏡トレーニングボックス、バーチャルシミュレータを用いた腹腔鏡トレーニングを行っています。基本的手技からアドバンスな手技まで経験し、手術に関する理解を深めます。



##### ●模擬患者参加型教育

65才以下の模擬患者と研修を受けたTAが、医学科の基本的診療技能実習、医学科OSCE、歯学科医療コミュニケーション演習等で活動しました。医学系OSCE公的化に対応する認定標準模擬患者の養成も行っており、10名の認定標準模擬患者が臨床実習前OSCEに参加しています。



##### ●第17回チーム医療入門～蔵本地区1年生合同WS～ テーマ「口」

医療人を目指す学生が相互理解を深め、将来円滑なチーム医療を行える基盤形成を目的として、蔵本地区の1年生全員を対象としたWSが毎年開催されています。

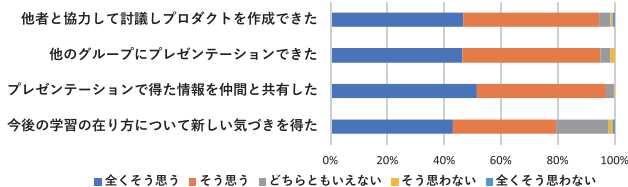
日時：2023年9月29日(金)13:00-16:30

内容：基調講演の視聴、Zoomのブレイクアウトルームを活用した討議・発表

基調講演：多職種協働におけるお口の役割

講師：徳島大学副学長 河野文昭先生

参加学生数：420名(医学部、歯学部、薬学部、1年生/出席率96%)



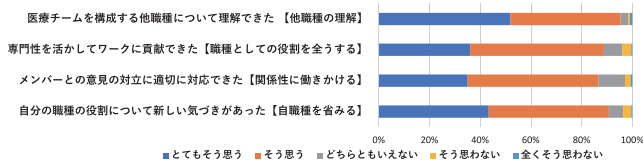
##### ●第11回学部連携PBLチュートリアル

1年生合同WSに続く専門職種連携教育として、医療系の学部学科が合同で患者シナリオを用いたPBLチュートリアル教育を実施しました。Zoomを活用し、多職種が混在するグループに分かれ、提示されたシナリオ患者について検討しました。

日時：2023年11月1日(水)9:00-11:30

内容：事前にシナリオ資料を配布し、事前学修とPowerPointを用いた共有作業を行う。当日はZoomのブレイクアウトルームを活用してグループでプロブレムマップとケアプランの作成と発表を行う。

参加学生数：413名(医学科4年124名、歯学科4年40名、口腔保健学科3年15名、医科栄養学科3年48名、保健学科看護学専攻4年71名、保健学科放射線技術科学専攻4年35名、保健学科検査技術科学専攻17名、薬学部4・5年63名)



##### ●新スキルス・ラボ



2023年9月、医歯薬学共創プラザ(歯学部校舎西側)1～3階に徳島大学スキルス・ラボが移転しました。総面積1596㎡(旧ラボの約2.7倍)を有しており、様々な実習や講習会、会議などに活用できます。徳島大学教職員の方はどなたでも利用できます。詳しくは医療教育開発センターにお声掛けください。



スキルス・ラボ物品一覧▶



スキルス・ラボ予約システム▶



# Center News ②

## 宇宙栄養研究センターニュース

■ 宇宙栄養研究センター 機能性宇宙食ユニット／  
生体栄養学分野・講師

内田 貴之

徳島大学・生体栄養学分野は、名古屋大学・名誉教授 曾我部 正博先生が研究代表者を務める“Cell Gravisensing”宇宙実験に共同研究者として参画しています。この実験では、「細胞がどのように重力を感知するか？」を解明するために、ISS日本実験棟「きぼう」に設置されている共焦点顕微鏡(ライブイメージングシステム: COSMIC)を用いて、 $\mu\text{G}$ の培養の様子と1Gから $\mu\text{G}$ へ曝露し変化する様子についてリアルタイムで地上から観察を行いました。本宇宙実験では合計3回の実験が計画されており、私は2023年10月～11月にかけて、第2回の実験作業を実施し、現在は結果解析を行っているため、その際の所感についてこの場を借りてご報告させていただきます。

本実験では、ライブイメージングで観察する細胞を準備するため、ロケット打ち上げ場のあるアメリカ・フロリダ州のケネディ宇宙センター(KSC)で細胞培養を行いました。主研究者である名古屋大学の先生、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、AES、JAMSS等の宇宙実験を運営していただく方々とフロリダ入りし、作業を開始しました。細胞培養自体は普段から実験で行っている内容と変わりありません。しかし、サンプル引き渡しから実際の観察まで、長いもので1週間程度かかる場合がある点、さらにロケット打ち上げ中は常温付近(通常の培養は $37^{\circ}\text{C}$ )である点など、いくつかの宇宙実験特有の要因があり、

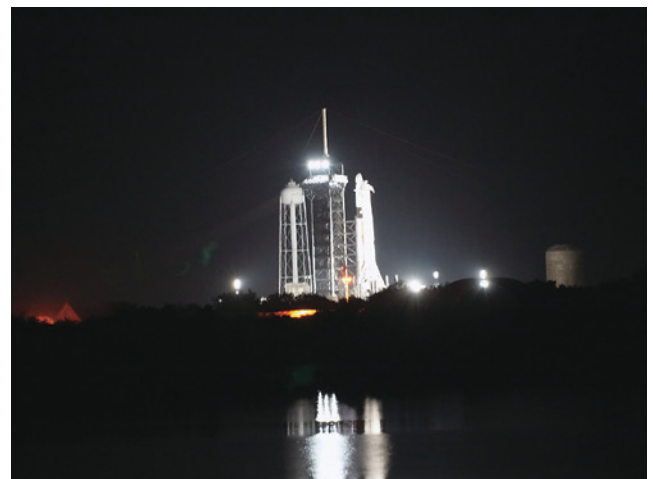
培地組成や細胞密度などの実験条件には細心の注意を払いました。普段とは違う食事や環境など大変なこともありましたが、実験の合間には周辺の珍しい雑貨屋や中心街などを巡り、色々と現地でしかできない体験もできました。また、宇宙飛行士KSC本部ビルやスペースシャトル打ち上げ場などの宇宙航空に関わる様々な場所も見学でき、とても良い刺激を得られました。さらに、打ち上げ当日はロケット打ち上げ場近くの関係者席から実際の打ち上げを見学できました。現地時間で20時過ぎの打ち上げを見送ると感慨にふける間もなく、すぐさま帰国準備を整え翌朝には帰国の途につきます。帰国後翌日にはつくばの管制センターに入り、宇宙飛行士(今回は古川聡宇宙飛行士にご担当いただきました!)によって顕微鏡にセットされたサンプル観察が始まります。モニターを確認しつつ、地上から顕微鏡にコマンドを送り、顕微鏡を操作して目的の画像を取得していきます。これらの観察は宇宙飛行士の作業時間と同じく国際標準時に従って行い、観察自体は数回に分けて合計で5日間に渡って行われたため、時差ボケも治りきらず、終了時には皆ボロボロになっていました。

振り返ると大変な作業ではありましたが、本実験が目指す細胞の重力感知機構を解明することで、微小重力環境でおこる筋萎縮や骨量減少のメカニズムを明らかにすることができ、さらには地上での寝たきり状態での病態の予防・治療法の開発に繋がるのが期待されます。現在は取得した画像の解析を進めており、これらの成果は超高齢化社会を迎えた我が国の健康問題解決の一助となると考えます。

最後になりましたが、今回の宇宙実験に関しては、名古屋大学の先生方、JAXA・AES及び関連企業の方々、宇宙飛行士の方々、そして二川健教授と生体栄養学分野のスタッフ・学生の方々のご尽力のおかげで実施することができました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。



画像1: KSC本部ビル正面からの画像



画像2: サンプルを乗せたロケット(中央付近にある白い物体)が待機している打ち上げ場

# Center News ③

## 看護リカレント教育センターニュース

### ■ 看護リカレント教育センター長

山下 留理子

#### ● 令和5年度活動報告

看護リカレント教育センターは、看護職にリカレント教育の機会を提供することにより、地域医療の高度化と看護の質向上を図るとともに、看護学における研究成果を地域社会に還元することを目的として開設され、4年が経過しました。これまで保健学域と協働し、看護師特定行為研修や認定看護師教育課程を開講してまいりました。

#### ● 認定看護師教育課程(在宅ケア分野/感染管理分野)

本教育課程は在宅ケア分野または感染管理分野において、熟練した看護技術及び知識を用いて、水準の高い看護実践のできる看護師を目指しています。1年課程であり、800時間以上の講義と演習、実習に取り組みます。令和5年度の入学生35名も無事、修了することができました。新型コロナウイルス感染症の5類への移行により、令和5年度は感染対策に留意しながらも対面授業や演習、実習を積極的に行いました。

在宅ケア分野は医歯薬学共創プラザに開設された在宅ケアスペースで実践的な演習を行ったり、企業の協力により在宅医療の最新機器や医療資材についてのハンズオントレーニングを、授業に取り入れたりすることができました。

本センター認定看護師教育課程の修了者数 人( )徳島県内

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	開講以来の累計
在宅ケア分野	21(11)	21(9)	24(6)	66(26)
感染管理分野			11(9)	11(9)

感染管理分野の研修生は関西空港検疫所でのフィールドワークや徳島県立中央病院で開催された感染症のアウトブレイク対応訓練に参加しました。両分野共に特定行為の実習や看護実習においてコロナ禍に比べ、より充実した教育内容を展開することができました。

認定看護師の資格を取得するには、本課程修了後に公益社団法人日本看護協会の認定看護師認定審査に合格しなければなりません。令和4年度の修了生は令和5年12月にその審査で全員が合格し、2年連続で本センターの修了生の合格率は100%でした。本センターから在宅ケア分野の認定看護師を42名輩出しており、全国各地で地域医療の牽引役として活躍しています。なお、徳島県の在宅ケア認定看護師の資格取得者数は全国トップです。県内修了生がネットワークを強固にして、在宅医療・看護



在宅ケアスペースにおける呼吸リハビリテーションの演習(在宅ケア分野)



在宅腹膜透析治療のための自動腹膜灌流用装置のハンズオントレーニング(在宅ケア分野)



微生物検査の演習(感染管理分野)



関西空港検疫所でのフィールドワーク(感染管理分野)

のリーダーとなって活動していくことを期待しています。

#### ● ホームカミングデー・フォローアップ研修

令和6年2月2日～4日の3日間、修了生を対象にフォローアップ研修を兼ねたホームカミングデーを開催しました。「自立支援とリハビリテーション」や「認定看護師のためのACP」、「在宅におけるむくみのケア」等、多彩なプログラムで講義や演習を行いました。また、修了生の実践報告会や在籍中の研修生との交流会を開催し、経験や専門分野、フィールドを超えて情報交換を行いました。全国各地から延べ190人が参加し「再会」と「新たな出会い」の場となりました。本センターが「地域・臨床の課題を持って何度でも大学に帰ってくる場」となるよう、引き続き、大学と地域の往還による生涯学習システムの構築に尽力してまいります。



むくみのケアの一つである多層包帯法の演習

#### ● 全国に向けた公開講座:「とくしま発在宅ケア学」「とくしま発・感染管理学」

令和5年度も認定看護師教育課程の授業の一部を公開講座とし、現場の看護職等を対象に「とくしま発・在宅ケア学」と「とくしま発・感染管理学」を開催しました。両分野を合わせ18回開催し、全国から延べ1623人の方が参加しました。全国のモデルとなる、とくしま発の看護活動を展開していくことを目指し、令和6年度も引き続き開催してまいります。

#### ● SDGs推進に係る連携創出の場形成支援事業

本センターではSDGs推進の取り組みの一つとして、「徳島県内の社会福祉施設を対象とした安心・安全なケアサービス継続のための感染対策支援事業」を実施しています。

これは、感染管理認定看護師の資格をもつ看護教員等が社会福祉施設に赴き、ケアスタッフを対象に感染予防対策についてアドバイスを行うものです。次なる感染症の危機に備え、実効性のある感染対策支援といった地域貢献だけでなく、感染管理分野研修生のフィールドワークとすることで、地域と連携して高い能力を発揮できる感染管理認定看護師養成に向けた教育的側面もあります。本事業は手指衛生に関する教育的介入とその評価を試みており、研究活動としても取り組んでいます。



高齢者施設に赴きケアスタッフを対象に「手指衛生」についての研修会を実施

本センターでは令和6年度も積極的に人材育成を通して社会に貢献するとともに、修了生が活動しやすい仕組みづくりに向け、取り組んでまいります。引き続き、ご指導の程、どうぞよろしくお願いたします。

# Center News ④

## DDS 研究センターニュース

### ■ DDS 研究センター長

小暮 健太郎

DDS 研究センターは、徳島大学の DDS 研究者の研究力を結集することによる我が国発・徳島大学発の DDS (薬物送達システム Drug Delivery System) 開発を目指して、令和 5 年 4 月 1 日に設立されました。本センターは、薬学部専門科目「コア DDS 講義」及び「研究体験演習」と連携することで、学部低学年からの DDS 教育を実践するとともに、博士課程・博士後期課程大学院生による DDS 研究を支援することで、次代の DDS 研究者の育成を目指しています。それら DDS 教育の一環として、全国各地から最新の DDS 研究を行っている研究者を招聘して、最先端の研究成果とその理論を聴講する機会を設ける試みを行っています。招聘した研究者は、DDS 研究センターサポーターとして、今後センターに種々ご協力いただくことになっています。また、産・学の実質的融合連携を目指して、徳島県及び香川県の製薬企業等のニーズに応える形で招聘した DDS 研究者とのクローズドな懇談会を企画・実施することで、企業との「共創の場」を形成する試みも行っています。

令和 5 年度は、以下の DDS 研究センター主催シンポジウムを開催いたしました。

- ・徳島大学大学院医歯薬学研究部 DDS 研究センターキックオフシンポジウム (令和 5 年 5 月 26 日) 薬学部第 1 講義室、参加者総数 85 名 (学生 51 名、教職員 12 名、学外企業等 22 名) (右写真)
- ・徳島大学大学院医歯薬学研究部 DDS 研究センター・徳島大学研究クラスター「次世代 DDS 拠点形成 / 1q 増幅がも

たらず腫瘍の進展・難治性病態の解明とその克服のための新規治療薬の創出」・SDGs 推進に係る連携創出の場形成支援事業合同シンポジウム (令和 5 年 9 月 15 日) 薬学部長井記念ホール、参加者総数 95 名 (学生 58 名、教職員 17 名、学外企業等 20 名)

・徳島大学大学院医歯薬学研究部 DDS 研究センター・徳島大学研究クラスター「次世代 DDS 拠点形成」・SDGs 推進に係る連携創出の場形成支援事業合同シンポジウム (令和 5 年 12 月 11 日) 薬学部第 1 講義室、参加者総数 81 名 (学生 49 名、教職員 12 名、学外企業等 20 名)

・徳島大学大学院医歯薬学研究部 DDS 研究センター・徳島大学研究クラスター「次世代 DDS 拠点形成」・SDGs 推進に係る連携創出の場形成支援事業合同シンポジウム (令和 5 年 12 月 21 日) 薬学部第 1 講義室、参加者総数 49 名 (学生 29 名、教職員 7 名、学外企業等 13 名)

また、6 件の特別講演会 (小泉修一先生、横川隆司先生、渡辺雅彦先生、古屋茂樹先生、高橋葉子先生、岡田弘晃先生) を実施しました。さらに令和 6 年 2 月 6 日に、薬学部 iTEX 事業と DDS 研究センターとの合同シンポジウムを開催し、新たな企画として若手教員と大学院生によるポスター発表会を実施しました (参加者総数 49 名 (学生 18 名、教職員 13 名、企業 18 名))。これらは、DDS 研究センターホームページ (<https://www.idds.tokushima-u.ac.jp/index.html>) に掲載していますので、ぜひご覧ください。



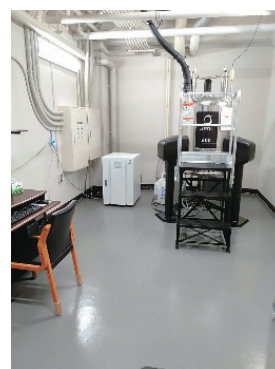
# Center News ⑤

## 総合研究支援センターニュース

### ■ 中央機器室 薬学系分室

副技術部門長 北池 秀次

中央機器室では、経年劣化が進んだ 3 台の汎用型核磁気共鳴装置 (以下 NMR) を更新できましたので、ご紹介させていただきます。NMR は、主に創薬化学分野の教育・研究に使用され、有機化合物の合成や天然有機化合物の構造決定に欠くことのできない必須機器となっています。有機化学系 6 研究室の教員・研究者及び学生はもとより、各学部・創薬インキュベーション・先端酵素学研究所等、併せて 110 名以上のユーザーによって共同利用されてきました。測定頻度は 24 時間 365 日休まる間はなく、1 日 50 件、多い時に月 700 件の高頻度で測定される時もあります。安全衛生面では、酸欠防止対策として酸素濃度計と連動した自動強制換気装置を備え、安心してご利用いただけます。今後も全学を対象とする研究機器の共同利用と有効活用を推進していきます。ご支援のほど、よろしく申し上げます。



第 1 ~ 2NMR 室 (JEOL JNM-ECZL500R)



第 3NMR 室 (Bruker AVANCE NEO400)

# Center News ⑥

## AWA サポートセンターニュース

### 女性研究者の活躍推進への取組について

■ AWA サポートセンター長

坂東 良美

#### ● 学長と女性研究者の懇談

学内の様々な部局からそれぞれの立場でご出席いただいた女性研究者の方々と、より良い研究環境の整備を目指して、ライフイベントやワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備、研究力向上のための取組、大学に対する要望等の意見交換を目的とした懇談会を開催しました(蔵本地区9月4日、常三島地区11月13日)。出席者からは、研究環境の充実や、リーダー育成の手掛かりとなる情報、キャンパス内の施設への要望など、様々な意見をいただき、今後の支援の在り方を検討するための有益な機会となりました。



学長と女性研究者の懇談  
蔵本地区



学長と女性研究者の懇談  
常三島地区

#### ● 四国発信! ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクトシンポジウム2023 (女性リーダー育成セミナー/女性キャリア形成支援セミナー同時開催)



河村学長開会挨拶

牽引型事業開始の2018年度より開催してきたシンポジウムは、新型コロナウイルスの影響により、キックオフ初年度以外はオンライン開催でしたが、最終年度の2023年度は対面開催を実現することができました(12月5日)。

「四国から躍進! はばたけ女性研究者～6年間の成果と今後～」をテーマに、九州大学副学長玉田薫氏による基調講演(SENTAN-Qが目指すもの—九州大学におけるダイバーシティ推進—)、四国地域の国立5大学の女性研究者によるパネルディスカッション(テーマ「事業成果から得られたキャリア形成の試み」)を行い、女性研究者のロールモデル紹介の場となり、女性リーダー育成への意識醸成につなげました。



パネルディスカッションの様子

### 令和5年度 蔵本地区国際交流の夕べを開催しました。

■ 大学院医歯薬学研究部長特別補佐 医学部国際コーディネーター 村澤 普恵

令和6年元日、テレビから突然「緊急地震速報」が流れ、次いで「津波警報」が出されると、「今すぐ避難!」と叫ぶアナウンサーの緊迫した声が聞こえてきました。能登半島地震の発生でした。また翌2日の夜には、羽田空港の滑走路でJAL機と海上保安庁の飛行機が衝突、炎上というニュースが流れました。

元日には、健康で、今年こそは紛争や災害、大きな事故や事件のない平和で穏やかな一年でありますようにと願った方も多かったと思いますが、その矢先の連日のニュースに辛い一年の始まりとなりました。亡くなった方々のご冥福を心よりお祈り致します。

さて、昨年のごことに思いを馳せますと、新型コロナウイルス感染症の位置づけが、昨年5月から、それまでの「2類相当」から「5類感染症」になりました。これにより、行政が様々な要請や規制をしていく仕組みから、個人の選択を尊重した対応に変わりました。新型コロナウイルス感染症の心配がなくなったわけではありませんが、コロナと共生する新しい時代の生活が始まりました。それに伴い、各地で文化・



赤池研究部長の挨拶

芸術やスポーツなど様々な催しが再開され、特に明るい話題としては、侍ジャパンの世界一奪還がありました。その一方で、世界各地の紛争や国内の政治・経済情勢の変化もめぐるしい一年でした。

そのような中、大学院医歯薬学研究部では、コロナ禍で3年間中断していた「蔵本地区国際交流の夕べ」(以後「交流会」)を、12月20日(水)、キッチン SAKULA(蔵本キャン



パス 蔵本会館 1 階) で 4 年ぶりに開催しました。交流会は、母国を遠く離れて徳島に暮らす蔵本地区の留学生が、相互にまた日本人学生や教員とも交流を深め、徳島での楽しい思い出を母国に持ち帰ってもらうことを目的として、2005年から毎年行っており、今回で17回を数えました。この度、この開催のお知らせをしたところ、11か国(エチオピア、スペイン、中国、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ブラジル、ベトナム、マレーシア、モンゴル、日本)、81名が参加しました。

交流会は、赤池雅史 大学院医歯薬学研究部長の開催挨拶で始まり、参加者は SAKULA 心づくしの料理と飲み物などを楽しみながら歓談しました。宴もたけなわとなった頃、参加者によるプレゼンテーションやパフォーマンスの時間となり、まずベトナム人留学生とその家族が、ベトナムについて紹介した後、ウクレレ演奏とベトナムの歌を披露しました。テンポの良い見事なウクレレ演奏とお子さんのかわいらしい歌声に大きな拍手が送られました。次に、バングラデシュ人留学生による歌の披露、そして最後に、日本人家族の皆さんによるギターとリコーダーによる演奏に合わせて、参加者全員がクリスマスソングと「We Are The World」を歌いました。留学生も日本人も、大人も子供も国籍や世代を超えて会場は大いに盛り上がり、大きな一つの交流の輪が生まれました。

令和 6 年 1 月 1 日現在、徳島大学には18の国と地域から190人の留学生が在籍し、内11か国53人が蔵本地区(医学部医学科、大学院医学研究科、医科栄養学研究科、保健科学研究科、口腔科学研究科、薬学研究科)で勉学に励んでいます。



参加者全員で合唱



ベトナム人親子によるウクレレ演奏と歌の披露

徳島大学 INDIGO 宣言に「多様なヒト、モノ、コトが行き交う中で学内外との交流を繰り返して人材が成長し、幅広い能力で社会に貢献する。」とあります。この交流会は、限られた環境の中で生活をするのが多い留学生の皆さんにとっては、教員や日本人学生と交流できる貴重な機会となっており、また、将来、社会に貢献する人材育成が求められている本学においても、日本人学生にとってもこの交流会に参加することにより、徳島に居ながらにして様々な異文化に触れ、留学生と交流することによりグローバルな意識を醸成するとともに、英語によるコミュニケーション能力向上等幅広い能力を培うことのできるまたとない機会となっています。

今年はパリで、平和の祭典であるオリンピック・パラリンピックが開催されます。フェアに競技し、異文化を理解しながら、多様性を受入れながら友情を育むことが目的とされるオリンピック・パラリンピック。記念すべきこの年にその精神に思いを馳せながら、そして被災地の復旧・復興を心から願いつつ、今年もまた「蔵本地区国際交流の夕べ」で皆さんにお会いできることを心より願っています。



日本人ファミリーによる演奏と歌の披露



赤池研究部長を囲んで参加者で記念撮影

## 令和5年度 大学院医歯薬学研究部市民公開講座 開催報告

■ 代謝栄養学分野 教授 阪上 浩

令和5年10月22日(日)に、徳島大学藤井節郎記念医科学センター1階の藤井節郎記念ホールにおいて、令和5年度の市民公開講座が開催されました。当日は第56回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会と、食と栄養研究クラスターとの共催、徳島県栄養士会の後援を受け、テーマは「食と栄養の現在・未来」。この講座では、食と健康に関する最新の情報と未来への展望を共有する貴重な機会となりました。

まず、食と健康に関する最新情報として、堤理恵先生(サントリーグローバルイノベーションセンター)が、「集中治療室での栄養学」について詳しく解説していただきました。これに続いて、徳島大学大学院医歯薬学研究部腎臓内科学分野の脇野修教授が「慢性腎臓病の食事」に焦点を当て、腎臓機能を保ちつつ食事を楽しむ方法について参加者に分かりやすく伝えていただきました。未来への展望として、医薬基盤・健康・栄養研究所センター長の國澤純先生が「食と腸内細菌の見えざる関係と健康未来」をテーマに最新の研究成果をもとに、腸内細菌と食事の相互関係、健康への影響について議論し、最後には、宇宙栄養学の視

点から、徳島大学大学院医歯薬学研究部生体栄養学分野の二川健教授が「宇宙栄養学から学ぶもの」について考察していただきました。

講師陣の先生方からの広範な情報提供により、栄養学や腎臓病の栄養と食事、腸内細菌や宇宙栄養学といった多岐にわたる視点からの理解が深まり、参加者との質疑応答を通じて活発な討議が行われました。この講座はケーブルテレビ徳島からの放送もあり、より多くの方々に食と栄養に関する興味深いトピックに触れる機会となりました。最後に、開催にご支援ご協力を賜りました徳島大学を含む多くの関係者に深く感謝申し上げます。



國澤 純 講師 (医薬基盤・健康・栄養研究所センター長)



## 令和5年度 大学院医歯薬学研究部公開シンポジウム 開催報告

■ 生物有機化学分野 南川 典昭 臨床薬学実務教育学分野 阿部 真治

令和5年11月3日(金)に薬学域主催で、「薬学の原点と未来への展望」と題して、医歯薬学研究部公開シンポジウムを長井記念ホールにて開催いたしました。

本シンポジウムでは、我が国における有機合成化学の第一人者であり現日本薬学会会頭の岩瀬好治先生に、これまでの日本の薬学の歴史と将来に向けての展望について、ご講演いただきました。日本の薬学は有機合成の分野がお家芸であり、多くの医薬品を開発するとともに、それに携わる創薬人材を輩出することで、医療の発展に貢献してきました。しかし、近年では有機合成による低分子化合物だけではなく、中～高分子の新規モダリティが医薬品市場において大きな割合を占めており、新たな領域に挑む人材の育成が急務であることをお話いただきました。また、創薬人材だけでなく臨床現場で直接医療に携わる薬剤師の養成も重要であり、最適な薬物治療の提供に貢献するとともに、基礎研究者と協力して臨床での問題点を解決に導くリバーストランスレーショナルリサーチに貢献できる人材の重要性

についてもお話いただきました。日本の薬学は、「薬を創る学問」、「薬の作用機序を明らかにする学問」、「薬を正しく使う学問」を三本柱とする学問領域であり、基礎から臨床へ、臨床から基礎へと循環する薬学教育・研究の確立に向けて、日本薬学会会頭としてのビジョンをお示しいただきました。

本シンポジウムは、薬学部創立100周年記念講演会および薬学部卒業教育公開講座を兼ねており、オンラインを含め約180名の方々にご参加いただきました。開催に際し、ご支援ご協力賜りました皆様方に厚く御礼申し上げます。



## 新任教授ご挨拶



■ 泌尿器科学分野

教授 古川 順也

令和5年11月1日付けで泌尿器科学分野教授を拝命いたしました。私は平成12年に神戸大学を卒業後は同大学泌尿器科に入局し、市中病院の研修を経て大学院に進学し、膀胱癌に対する免疫治療に関する研究、さらに海外留学時には前立腺癌に対する新規標的治療に関する研究に従事しました。帰国後は泌尿器腫瘍学を専門分野とし、薬物治療やロボット支援手術を中心とした低侵襲手術に取り組んでおります。これらの研究や臨床実績から得た知見をもとに、患者様に最先端かつ個別化された医療を提供することに情熱を傾け、未来の泌尿器科医療を支える人間性豊かな医師の育成を目標とし、徳島県の泌尿器科医療の拠点として地域医療への貢献に尽力してまいります。今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

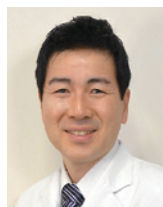


■ 顕微解剖学分野

教授 寺井 健太

顕微解剖学分野教授に令和5年12月1日より着任いたしました寺井健太と申します。この場を借りてご挨拶させていただきます。私は、北海道大学医学部を卒業後に、大阪大学、米国バージニア大学、国立循環器病センター、東京大学、京都大学と研究・教育に従事してまいりました。この間、新しい観察方法を開発して生命科学を解き明かすことを行ってまいりました。観察方法の提案については皆様のお役に立てるのではないかと考えております。

これからの組織学は二次元の世界から、三次元や四次元に変遷しようとしています。これらに加え、機械学習の台頭や遺伝情報などが付随するようになってきました。徳島大学の学生には、従来の組織学はもちろんのこと、これらの変化に対応できるような素地を付けていただけるように尽力する所存です。



■ 地域・家庭医療学分野

特任教授 八木 秀介

令和5年12月1日付けで新規開設講座である地域・家庭医療学分野と徳島県の寄附講座である総合診療医学分野の特任教授を拝命いたしました。私は徳島県出身で、愛媛大学卒業後、徳島大学旧第一内科、国立循環器病研究センターにて、総合診療・循環器内科の研修を受け、米国ロチェスター大学にて基礎研究に従事しました。症状から臓器横断的に全身を診ることを目標として、臓器別診療科と協力しながら総合診療を実践したいと存じます。また地域で求められている総合診療・家庭医療を実践しながら、全人的な治療を提供できる医療人の育成を卒前・卒後のシームレスな教育を通じて行っていく所存です。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



■ 総合診療歯科学分野

教授 北村 直也

令和6年1月1日付けで総合診療歯科学分野の教授を拝命いたしました。私は平成10年に広島大学歯学部を卒業後、同大学大学院（口腔外科学）にて博士（歯学）を取得し、その後は川崎医科大学、広島大学、高知大学で歯科口腔外科の臨床・研究・教育に取り組んで参りました。今後は高い倫理観と問題解決能力を有する歯科医師の育成を目標に「診療参加型臨床実習－卒業臨床研修－大学院」教育をシームレスに展開したいと考えております。また研究面では、補綴学・保存学・口腔外科学を専門とする多彩な人材が集まる分野の特性を活かして、様々なアプローチにより「睡眠歯科学」、「歯周病と全身疾患との関連」、「口腔疾患における微生物の関与」に関する研究に尽力する所存です。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 研究部ニュース

### 令和5年度大学院医歯薬学研究部長表彰

大学院医歯薬学研究部では、教育・研究活動、社会貢献及び課外活動等において顕著な功績があった者に対し、研究部長表彰が令和6年3月11日に研究部長から授与されました。

#### 被表彰者

##### ■ 大学院医歯薬学研究部

放射線治療学分野 佐々木幹治 助 教  
臨床神経科学分野 松井 尚子 准 教授  
予防環境栄養学分野 馬渡 一論 講 師(50音順)



### 退職教授一覧

● 医学域	佐々木 卓也	教 授 (生化学分野)	R6.3.31	定年退職
● 歯学域	市川 哲雄	教 授 (口腔顎顔面補綴学分野)	R6.3.31	定年退職
	吉村 弘	教 授 (口腔分子生理学分野)	R6.3.31	定年退職
	伊藤 博夫	教 授 (予防歯学分野)	R6.3.31	定年退職
	宮本 洋二	教 授 (口腔外科学分野)	R6.3.31	定年退職
● 保健学域	近藤 和也	教 授 (臨床腫瘍医療学分野)	R6.3.31	定年退職

# 学会情報

## 第18回日本統合失調症学会

会長：沼田 周助  
 開催日：令和6年4月13日(土)～14日(日)  
 会場：徳島大学蔵本キャンパス 大塚講堂 他  
 問合せ先：精神医学分野  
 TEL:088-633-7130

## 第32回日本Cell Death学会学術集会

会長：安友 康二  
 開催日：令和6年7月20日(土)～21日(日)  
 会場：徳島大学藤井節郎記念医科学センター  
 問合せ先：生体防御医学分野  
 TEL:088-633-7077

## 第110回日本消化器病学会総会

会長：高山 哲治  
 開催日：令和6年5月9日(木)～5月11日(土)  
 会場：アスティとくしま・徳島文理大学  
 問合せ先：消化器内科学分野  
 TEL:088-633-7124

## 第269回徳島医学会学術集会

会長：西岡 安彦  
 開催日：令和6年7月21日(日)  
 会場：徳島県医師会館  
 問合せ先：医学雑誌編集室  
 TEL:088-633-7104

## 第132回日本消化器内視鏡学会四国支部例会

会長：岡本 耕一  
 開催日：令和6年6月8日(土)～6月9日(日)  
 会場：あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)  
 問合せ先：消化器内科学分野  
 TEL:088-633-7124

## 第31回日本がん予防学会総会

会長：高山 哲治  
 開催日：令和6年9月6日(金)～9月7日(土)  
 会場：徳島県医師会館  
 問合せ先：消化器内科学分野  
 TEL:088-633-7124

# 学会賞等受賞者紹介

### 第9回日本筋学会学術集会 Student's Award 優秀賞



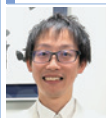
■長谷川 優花[生体栄養学分野・大学院生]  
 ●令和5年8月19日  
 ●間葉系前駆細胞の不均一性が支える筋健全性維持メカニズムの解明

### 第9回日本筋学会学術集会 若手研究奨励賞(YIA)



■和泉 優奈[代謝栄養学分野・助教]  
 ●令和5年8月19日  
 ●骨格筋による新たな体温維持機構の発見とその制御分子の同定

### 生体機能と創薬シンポジウム2023 ポスター賞



■坂東 寛[臨床薬理学分野・大学院生]  
 ●令和5年8月25日  
 ●大規模医療情報データベース解析を基盤としたラモトリギンの皮膚障害発現リスクに影響する薬剤の探索

### 日本薬学会薬理系薬学部会 生体機能と創薬シンポジウム2023 優秀ポスター発表賞



■三竿 顕也[生命薬理学分野・大学院生]  
 ●令和5年8月25日  
 ●Arachidonic acidおよび2-arachidonoyl glycerolによるcyclooxygenase-2分解促進作用

### 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2023 口頭発表 優秀発表賞



■常松 保乃加[医薬品機能生化学分野・大学院生]  
 ●令和5年8月26日  
 ●藍含有成分はendothelin-1発現を制御して肺動脈血管リモデリングを形成させる

### 学術革新領域研究(A) 令和5年度「自己指向性免疫学」若手ワークショップBest Poster Award



■古賀 鈴奈[生体防御医学分野・大学院生]  
 ●令和5年9月1日  
 ●免疫プロテアソーム機能不全による脂肪組織の自己炎症発症機序

### 第51回中国四国医療情報学研究会 若手研究奨励賞



■単 暁[医療情報学分野・大学院生]  
 ●令和5年9月2日  
 ●深層学習を用いた糖尿病患者に対する食事提案システムの開発

### がん予防学術大会2023金沢 若手研究者優秀演題賞



■川口 智之[消化器内科学分野・大学院生]  
 ●令和5年9月9日  
 ●Connectivity Mapによる大腸癌予防薬の網羅的解析とSessile serrated lesionのオルガノイドを用いた抑制効果の検討

### 日本歯科衛生学会 第18回学術論文賞奨励賞(サンスター財団賞)



■藤原 奈津美[口腔保健医療管理学分野・教授]  
 ●令和5年9月17日  
 ●口腔体操プログラムは自立高齢者の口腔機能と健康および口腔リテラシーに影響を与える

### 遺伝子・デリバリー研究会 第22回シンポジウム奨励賞



■吉村 友佑[衛生薬学分野・大学院生]  
 ●令和5年9月19日  
 ●イオントフォoresisによる核酸医薬の肝臓局所的な送達

### 令和5年度日本歯学会 奨励賞



■三橋 淳志[呼吸器・膠原病内科学分野・特任講師]  
 ●令和5年9月23日  
 ●腫瘍内 fibrocyte の同定と制御による新規がん治療開発への橋渡し研究

### 日本宇宙生物科学会第37回大会 奨励賞



■内田 貴之[生体栄養学分野・講師]  
 ●令和5年9月24日  
 ●微小重力環境における筋萎縮発生メカニズムの解明

### 2023 Tokushima Bioscience Retreat Young Researcher Award



■宮田 晃志[臨床薬理学分野・大学院生]  
 ●令和5年9月28日  
 ●Investigation of the association between fluoroquinolones and aortic diseases.

### Tokushima Bioscience Retreat 若手研究者奨励賞



■小林 大志朗[機能分子合成薬学分野・大学院生]  
 ●令和5年9月28日  
 ●Precise peptide/protein modification on tryptophan using S-protected cysteine sulffoxide

### 第44回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム 優秀発表賞



■山本 舜人[薬物動態制御学分野・大学院生]  
 ●令和5年10月20日  
 ●膜タンパク質搭載PEG修飾リポソームの脾臓辺縁帯領域から濾胞領域への送達による膜タンパク質に対する抗体誘導

### WORLD Symposium 2024 Young Investigator Awards



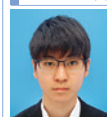
■城 裕己[医薬品病態生化学分野・大学院生]  
 ●令和5年11月8日  
 ●Ctsd integrity in the endoplasmic reticulum is required for cln6's anti-aggregate activity

### 日本ペプチド学会 学会賞



■大高 章[機能分子合成薬学分野・教授]  
 ●令和5年11月10日  
 ●副反応を起点とするペプチド・タンパク質化学の開拓

### 第60回ペプチド討論会 ポスター発表優秀賞



■林 隼矢[機能分子合成薬学分野・大学院生]  
 ●令和5年11月10日  
 ●Preparation Methodology of N-Glyoxylyl Peptide Utilizing Lossen Rearrangement

### 日本歯科保存学会2023年度春季学術大会(第158回)・優秀ポスター賞



■二宮 雅美[歯周歯内治療学分野・助教]  
 ●令和5年11月11日  
 ●PCRを用いたTreponema denticola, Tannerella forsythia迅速検出システムの有用性

### MBSJ2023サイエンスピッチ優秀発表賞 / MBSJ2023 Best Science Pitch Award



■長谷川 優花[生体栄養学分野・大学院生]  
 ●令和5年12月21日  
 ●間葉系前駆細胞の不均一性が支える筋健全性維持機構の解明

## 編集後記

13年前を彷彿させる未曾有の地震から始まった2024年。終わりが見えない狂詩曲のような毎日。ここに到って例の大魔王が四半世紀遅れで、慌てて立ち回っているのではないかと訝しんでいるのは、私だけでしょうか？ひとりでも多くの方が少しでも早く日常生活に戻れるようにと、ここ徳島の地にて祈ることしかできません。さて100年振りにパリでオリンピックが開かれるこの夏。同じくちょうど100年前に、ガーシュウィンにより作られたブルーな狂詩曲。その不穏な低音から始まる滑奏音のような昨今の状況ですが、あらためてオリンピック憲章を喚起し、異なる文化への理解や寛容、そして和解が織りなす調和により、世界中の人々が、現在の試練を乗り越えられることを願ってやみません。寄稿して頂いた皆様に感謝を込めて。

医歯薬学研究部広報委員会 副委員長 藤野 裕道